

乙女高原が好き！ 1402 号

今年もたくさんのミスレと出会いました

依田 昇さん(フィールドガイド『乙女高原のスマレ・ウォッチング』編集代表/スマレ観察会講師)

◆第1回スマレ観察会 5月11日◆

乙女高原遊歩道づくりが早く終了した為、スマレ観察会を12時30分に前倒しスタートさせました。それでも13時30分に参加予定の方もいるかと思い、植原さんに後を託しました。

20名で、高原で一足早く太陽が届く場所、ヨモギ頭を目指しました。例年森の道ではエイザンスミレがたくさん見られますが今日は小さい花が2～3個見つかっただけでした。今年山梨は百年以上ぶりの大雪でした。高原も2週間ぐらい前まで雪が残っていたのではないかと感じました。

ヨモギ頭からは、雲ひとつない富士山が見られましたが、スマレに関してはアケボノスマレが白花に近いような花までかなりの数が見つかりましたが、アカネスマレ、タチツボスマレ、ヒナスミレ、エイザンスミレ、ヒゴスマレ（この時はシロバナエゾスマレと思いましたが、帰って写真で確認するとヒゴスマレでした）は例年に比べ数も少なく花も小さい物でした。

麻布大学の三名の学生は、高槻先生がいろいろと教えてくれていましたので、私と三枝子と井上さんと他の参加者と少ないスマレを見ながらスマレ談義をしました。スマレの好きな人は同じスマレでも他の新しい場所で見るスマレは初めて見る恋人に会うような感覚をもっているのではないのでしょうか。あっという間に1時間の予定が30分以上もオーバーしてしまいました。

植原さんが外国人の男性と日本人の女性の三人で上ってきました。残ってもらってよかったと思いました。私たちは、ヨモギ頭を下り、休憩後、四季の森に移動しました。

四季の森も、昨年までと変わっていました。真っ盛りに咲いているはずのヒナスミレが2～3個しか見つかりません。早咲きで日陰好きのヒナスミレは雪が多く遅くまで残った為、顔を出せなかったのでは？ミヤマスマレはかなり咲いていましたが、形は少し小さく感じました。ヒメイチゲは楽しませてくれました。

最近の異常天候で数は少なかったですが、種類はほぼ見られたので、参加者の皆さんも満足されたことと思いい、ここで散会しました。

私たち三人が「下りながら観察していきます」と話すと葛飾区と相模原市から参加された二組みのご夫妻が同行されました。花の終わったファイリヒナスミレを焼山峠で、かぼそく残った花のあるファイリヒナスミレ、マルバスミレ、きれいなエイザンスミレを乙女高原自然観察路入口近くで見ることができました。

葛飾からのご夫妻は25日の観察会にも参加して頂けそうです。

(追記) 5月18日、自然観察路をファンクラブ代表の宮原さんの案内で登りました。この路で新たにフモトスマレ、ファイリフモトスマレに出会いました。



◆第2回スマレ観察会 5月25日◆

今年2回目のスマレ観察会を行いました。10時スタート、参加者は前回も参加された葛飾区からのご夫妻、依田三枝子の姉、6名はファンクラブの会員の計9名でした。スマレが少ないことがわかっていたのか、少ない参加でしたが、それだけふれ合いの濃い観察会になりました。

ヨモギ頭では、乙女高原でも数少ないヒゴスマレ、シロバナエゾノタチツボスマレが見られました。

高原に場所を移しサクラスマレとその関連種の観察に。いつもこの時季にはサクラスマレが高原一面に見られるのですが、今年は2～3割しか咲いていません。いつもシロバナサクラスマレが現れる周辺を探しましたが見つかりません。この状況ですので、アルガスミレ、チシオスマレも見ることはいけませんでした。

昼食は、全員で一つのテーブルをかこみスマレの話を中心に思い思いの話に花を咲かせました。

午後、湿地帯に場所を移し観察、この場所はサンリンソウの群生地でもあり以前に比べると少し小ぶりに感じたが、かなりの数が見られました。

スマレに関してはこの周辺はニョイスミレ、タチツボスマレが多い場所で、その関連で、アカフタチツボスマレが見られました。また昨年、じつのところは前々よりあったものだと思いますが、突如ソラムキタチツボスマレ、キョナシタチツボスマレが見つかりました。今年も必ず見つかると探したところ青紫の朝顔が空を見上げるような形の良い物など、群生しているかのようにたくさん見ることができました。ただこのスマレは、「乙女高原で出合えるスマレ」に書いたように「ミドリタチツボスマレ」の愛称で呼ばれているスマレの仲間です、これは奇形種であるため同定はできません。でもこのスマレは何とも云われぬ可愛さがあり、皆さん一心不乱にシャッターを押していました。ただあまり増やしたくないスマレである事も知ってください。

最後に、乙女湖が見える場所でシコクスミレ、咲き終わってしまったオトメスマレ、形も色もきれいなミヤマスマレを見ることができました。ここには、スマレの他にズダヤクシュ、ハルザキヤマガラシ、コチャルメルソウ、ワチガイソウ等小さい可愛い花もたくさん咲いていました。

今日の観察会、少ないスマレで心配していましたが11種のスマレに出会えました。この後、観察会には行いませんが、6月上旬にかけてサクラスマレはもっと華やかに咲き誇り、その中に一輪でもシロバナサクラスマレが見つかる事を確信します、都合を付け近いうちにもう一度スマレに会いにきてください。こうして第2回スマレ観察会を無事終了しました。



このような団体・企業からご寄付や助成金をいただきました

～大切にに使わせていただきます。ありがとうございました～

- (株)田丸グリーン基金様より活動参加費をいただきました。遊歩道づくりと草刈りに毎年多くの社員が参加して下さいます。いただくのは今年で連続11年目です。
- 山梨市には山梨市乙女高原保護活動事業補助金交付要綱があり、これに基づいて毎年、乙女高原ファンクラブでは補助金申請しています。昨年度も補助金をいただき、遊歩道づくり・草刈りボランティア・乙女高原フォーラムで活用させていただいています。
- 山梨市観光協会牧丘支部様より寄付金をいただきました。
- イオングループ黄色いレシートキャンペーンによる寄付金を、イオン石和店様とマックスバリュ・イオン石和店様よりカードの形でいただき、プリンターのインクを購入させていただきました。
- あいおいニッセイ同和損害保険様は温暖化防止を中心とした地球環境の保全に向け、「あいおいニッセイ同和環境宣言」を公表、取り組みを進めており、その一環として助成金をいただきました。

里地里山モニタリング・アカガエル調査をしました

もともと調査は4月19日の予定でしたが、急きょ日程変更。ですが、参加希望の方からは事前にメールをいただいていたので、日程変更をお知らせすることができ、「集合時間に行っても誰もいなかった」なんて事態は避けられました。今後も、申し込みの必要がない活動でも、できるだけ申し込んでくださいね。

さて、集合場所の「道の駅まきおか」駐車場には6名が集まりました。三枝さん、芳賀さん、井上さん、雨宮さん、工藤さん（増穂ふるさと自然塾で、里モニ調査を行っています）、植原です。車に相乗りし、途中から歩いて乙女高原の湿地でヤマアカガエルの産卵状況を調査しました。

せっかく6人のグループで乙女を目指すのですから、途中、何力所か寄り道しました。まず、林道入り口の湿地。ヤマアカガエルの卵はみんなオタマジャクシになっていて、新たな卵はありませんでした。ヒキガエルの産卵もありませんでした。次に林道脇のかえる池。ここも新たな卵はありませんでした。ヒキガエルもなし。気温・水温とも5℃でした。サワラ林でも止まりました。サワラの巨木が古代から続いているような気がしました。柳平に近くなると、木の枝や地面に白いところが見え始めました。雪が降ったのです。里では昨晩は雨でしたが、乙女では雪だったのです。さすが乙女高原・・・出発時、「今日はたぶん長靴も必要ありませんよ」とナメてかかっていたのですが、やっぱりあなとりがたしです。

いよいよ乙女高原。湿地Aを歩きましたが、上からポタポタと水。ほとんど降り状態です。枝に積もった雪が融けて落ちてくるので、雨の中を歩いているようです。以前に産まれた卵は発生が進み、刀型になっていたり、おたまじゃくしになっていたり。気温4℃、水温7℃でした。ここでは、一つ、新たな卵塊が見つかりました。指でつつくと、プヨプヨ。

湿地Bでは、フロート式のデータロガーが健在でした。手で少しだけすくい上げてみると、発生の状態がよくわかります。残念ながら新たな卵塊は見つかりませんでした。クリンソウの芽がだいぶ大きくなっていました。

さて、今日はせっかく6人で来ているのだから・・・と、以前からヤマアカガエルの産卵を疑っていた湿地(湿地C)まで足を伸ばしてみました。ぼくは、乙女高原の湿地って子宮みたいだなと常々思っています。まあく窪んでいて、そこから水(=命というイメージです)が流れだしているからです。この湿地はまさにぼくのイメージ通りの湿地。まだ多くの残雪がみられました。「ここで卵が見つかったら初記録ですよ」と楯を飛ばしたら、雨宮さんが本当に見つけてしまいました。3腹分の卵塊です。

寒さ対策をしてきたつもりなのですが、厚手のフリースを通して寒さが身に沁みます。手袋もあればよかったなと後悔。ロッジの玄関でお昼を食べました。

昼食後、草原の中を歩きまわりました。「冬の間の野ネズミ地下大帝国の遺跡」がたくさん見つかります。大勢で観察するのいいですね。たくさん目があるので、いつもより多くの発見があります。野ネズミたちの糞のかたまりがいくつか観察されました。野ネズミのトイレの遺構かもしれません。

富士山ポイントは乙女でもっとも多くスマレが見られる場所です。ヒナスマレとタチツボスマレの小さな小さな葉が出ているのを見つけました。スマレの花の季節までもう少しです。

ブナじいさんにあいさつして戻ってきました。ツノハシバミの花がきれいに咲いていました。雄花が穂状に垂れ下がるのですが、一つの株は穂が赤っぽくて、隣は黄土色でした。この色の違いはなんだろう？と話題になりました。この時は結論が出なかったのですが、翌週、もう一度この株を見たら、疑問氷解。咲き始めて花粉がいっぱいあると赤くて、その花粉が出てしまうと黄土色になっていくようです。その証拠に赤かった穂も黄土色になっていて、少しだけ、まだ赤い穂が残っていました。

※この調査は(公益財団法人)日本自然保護協会と環境省の共催事業です。



里地里山モニタリング2014 調査結果

月 日	地点A	地点B	地点C
4月 5日	4腹	7腹	—
4月12日	0	+6腹	—
4月20日	+1腹	0	3腹
4月26日	+2腹	+1腹	+1腹
5月 6日	+2腹	+6腹	+2腹
計	9腹	20腹	6腹

遊歩道づくり あっという間に遊歩道ロープが

5月11日、今年で第15回目となる遊歩道づくりが行われました。週間天気予報ではアブなかったのですが、ふたを開けてみると、朝からスカッとした青空。雨の心配はまったくなくて済みました。

秋の草刈りにしても、この遊歩道づくりにしても、だんだん参加者が少なくなってきていてとても心配していました。他団体の行事とダブってしまうのが原因という声もありますが（遊歩道づくりの日は毎年、旧山梨市エリアの河川清掃日に当たっています）、かといって、遊歩道づくりの日程を動かしたら、今度は他の行事とダブってしまうでしょう。日程変更しにくいのが現状です。だけど、今年は昨年より14人も参加者増でした。多くの方が参加してください、ほんとうにうれしかったです。飛び入りのスタッフになってくださった方も大勢いらっしゃいました。また、山梨日々新聞、毎日新聞、山梨放送（テレビ）が取材していただきました。マスコミ取材によって、さらに多くのみなさんに乙女高原の取り組みを知っていただけるので、メディアのみなさんは乙女高原の自然を守っていく仲間だと思っています。

それにしても、もう15年も「県」と「市」とファンクラブがタッグを組んで、乙女高原の自然を守るための活動をしているんですね。両者とも本当に真摯に取り組んでくださっていて、頭が下がる思いです。夜（つまり勤務時間後）打ち合わせの会を行い、それぞれの役割分担を決め、その後、それぞれで準備を行い、当日もそれぞれの仕事を責任持って十分というより十二分に行ってくださいます。自画自賛に聞こえるかもしれませんが、こんなにうまくいっている「行政と市民団体のパートナーシップ」を他に知りません。

さて、当日の流れは例年の通りでした。スタッフの打ち合わせ後、係ごとに準備をし、参加者の受付を開始。今年から遊歩道づくりでもペットボトルのお茶を配布することにしました。熱中症対策です。ちょうどこの日は、その対策が必要なほどのいい天気でした。必要な方にはペットボトルのホルダーをお貸ししました。

受付が済んだら、ロープの縛り方の練習です。ロープを杭に開けた穴に通すのではなく、単純に杭に「縛りつける」のが乙女流です。ロープ縛りの師匠・武井さんの指導で、みなさん1年前の勘を取り戻しておられました。ちなみに、一般的には「とっくり結び」と呼ばれている縛り方です。

はじめの会は市観光課・網野課長さんの司会で始まりました。ご挨拶は山梨市長の望月さんです。終了後、田丸さんからの協力金の贈呈式を行わせていただき、班ごとに班長さんを中心に打ち合わせをしたり、細かい説明を聞いてから、草原へと繰り出しました。

トランシーバーで「杭が足りないから持ってきて」「ロープが余ってるよ。必要な班はない？」「終わってしまったけど、手助けが必要な班は？」など情報をやりとりしながら進めました。これには市観光課の藤原さんが大活躍。各班からの情報をてきぱきとさばいてくださいました。

天気がよく、参加者も多かったことから、1時間も早く作業が終わってしまいました。おわりの会を行い、宮原代表世話人のあいさつ、三枝代表世話人の諸連絡を聞いた後、



田丸グリーン基金から活動参加費をいただきました。



解散しました。

草刈り実験 ワールドカップを聞きながら

6月15日、昨年からはじめた刈り取り実験2年目の第1回目草刈りでした。乙女高原では毎年11月という決まった時期に草刈りをしてはいますが、それ以外の時期に草刈りをしたら草原生態系にどのような違いが出てくるのか…を探るのが目的です。これには、麻布大学の高槻先生はじめ野生動物学研究室の全面的な協力を得ています。実験の具体的な方法はこうです。草原内に10m四方の方形区を6箇所設定しました。方形区は分かりやすいように四隅に杭を打ち、ポールを立てています。6箇所それぞれで以下のように草刈りの仕方を変えます。

- ①6月区：6月に区内の全植物を刈り取って効果をみる。
- ②9月区：9月に区内の全植物を刈り取って効果をみる。
- ③11月区：11月に区内の全植物を刈り取る（現行の刈り取りの効果の確認）。
- ④2度刈り：6月と9月に区内の全植物を刈り取って、2度刈りの効果をみる。
- ⑤選択刈り：6月に区内のススキのみを刈り取って効果をみる。
- ⑥刈り取りなし：全く刈り取りをしない区。

今回行ったことは、このうち①④⑤区の草刈りをし、それぞれの区内で今後調べていく植物を決めて、マーキングと調査をすることです。草刈りはおもにファンクラブで、マーキングは麻布大学の皆さんで行いました。今回、お集まりいただいたのは9人。梅雨の中休み、抜けるような青空の元、作業がはかどりました。麻布大学の皆さんは草原到着後、さっそく作業に取りかかりました。先にマーキングや調査をすませてからでないといふ草刈りができないという事情があったからです。

草刈りは刈り払い機を使って宮原さんと武井さんが6月区と2度刈り区を、選択刈り区については他の人が手刈りで行いました。刈った草は成城大学の山小屋があった場所に運びました。

奇しくも草刈り実験の開始時刻は、サッカー・ワールドカップ予選日本・ギリシャ戦と同時でした。麻布大学の学生さんの中には、なんとレプリカ・ユニフォーム姿の人が！！そして、宮原さんが持ってきてくださったラジオの中継を聞きながらの作業となりました。草原の中に散らばっての作業でしたが、ラジオを持って行った学生さんが「日本、一点入れました！」などと大声で中継してくれたのでみんなで一喜一憂しながら作業を進めました。乙女高原では「ラジオでの」サッカーの実況中継が必要です！

真っ赤なレンゲツツジが真っ青な青空によく映えていました。作業は順調に進み、ロッジ前のベンチでお昼を食べました。今後、それぞれの方形区がどう変化していくのか楽しみです。皆さんも注目してくださいね。と同時に、2010年5月に設置したシカ柵の中と外がどんなふうに変ってくるかにも目を向けてください。よろしくお祈りします。



■乙女高原に、こんな解説板を設置しました！

～乙女高原に行ったら、ぜひ、ご覧ください～

- ① ロッジ看板前に、フィールドガイドを展示できる解説版を雨宮さんが設置してくださいました。今は「お花たち」と「スマイル」が展示されています。
- ② ロッジ看板後ろに、フィールドガイドをラミネートしたものを掲示しました。
- ③ ベンチ・テーブルの上にフィールドガイドをラミネートしたものをランチョンマットのように置きました。お弁当食べながら見られるように…。設置して1カ月半で、けっこう「日焼け」してしまいました。
- ④ ロッジ玄関に「最近の乙女高原の様子」がわかるようなホワイトボードを掲示しました。「今頃どんな花が咲いているかわかります。ぜひご覧ください。」
- ⑤ 歩道ロープに植物紹介カードや注意看板を設置しました。



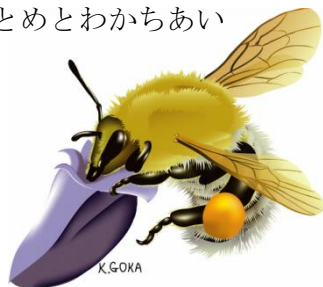
■夏の乙女高原へ、「乙女なアイドルたち」に会いに行こう！

～マルハナバチ調べ隊～

6/29(日)…終了, 8/3(日), 9/7(日) いずれの日も…午前10時～午後2時半

【プログラム】

- マルハナバチのかみしばい
- マルハナバチのライン・センサスちょうさ
- マルハナバチのまちぶせちょうさ
- ちょうさけっかのまとめとわかちあい



- 集合場所 乙女高原グリーンロッジ前
- ボランティア調査員 募集 20人
小学校4年生以上。それより小さいお子さんでも保護者と一緒なら参加可。調査経験がなくても大丈夫。申し込み順。
- 参加費 無料
ファンクラブの予算で行事保険に加入します。
- 持ち物 筆記用具, ペンとう, 雨具,
(他にルーペなど観察用具があれば)
- 参加者へのプレゼント
『乙女高原フィールドガイドⅡ マルハナバチウォッチング』を参加者全員にプレゼント！！

■草刈り実験ボランティアに取り組んでいます

～モニタリング調査も行っています～

ここ数年、乙女高原でススキが増えている…という指摘をよく受けます。そこで、現状の11月以外に草を刈ることでススキの勢力を弱められないか?…昨年、実験を始めました。麻布大学野生動物学研究室の全面的な協力を得て行っています。

今回の草刈りは9月ですが、1カ月に1回モニタリング調査も行っています。

●第2回目の草刈り 9月13日(土) 午前10時～12時半 持ち物はべんとう、雨具、軍手

●モニタリング調査予定日 7月13日(日) 8月10日(日) 9月13日(土)※ 10月5日(日)
開催日が変更になる可能性もありますので、必ず事務局にお確かめください。

■乙女高原に路線バスを利用して行けるようになりました

～6月から11月の土・日・祝日だけです～

- ・運行会社 英和交通
- ・運行日 6月1日から11月23日の土・日・祝日(振替休日を含む)
- ・運行方法 (行き) 塩山駅北口 08:25→柳平 09:10→焼山峠 09:15
塩山駅北口 09:15→柳平 10:00→焼山峠 10:05
(帰り) 焼山峠 15:25→柳平 15:30→塩山駅北口 16:15
焼山峠 16:40→柳平 16:45→塩山駅北口 17:30
- ・予約制 事前に英和交通に電話をかけて(0120-26-2344)、申し込む
- ・運賃 塩山駅北口→柳平 大人1,000円 小人500円
塩山駅北口→焼山峠 大人1,100円 小人550円
- ・(金峰山・夢の庭園など)大弛峠へ行くには柳平で下車し、乗合タクシーで。



※詳しくは英和交通まで

■次回、第14回乙女高原フォーラム講師に、高槻成紀さん

～2015年1月25日(日) 午後1時から～

ファンクラブの総会で、高槻成紀さんにフォーラムのゲストをお願いすることに決定。その後、共催者である市・県からも賛同が得られたので、正式に講師依頼しました。

高槻成紀さんは麻布大学獣医学部教授。動物生態学。宮城県金華山や五葉山でシカの調査研究に取り組んだ後、各地の野生動物調査を行いました。また海外でもスリランカのアジアゾウ、モンゴルのモウコガゼルなどの保全研究も手がけています。著書に「シカの生態誌」東京大学出版会、「野生動物と共存できるか」「動物を守りたい君へ」岩波ジュニア新書など。

第10回フォーラムのゲストをお願いして以降、研究室をあげて乙女高原での調査研究に取り組んでいただき、その結果から乙女高原保全のための助言をいただいています。今回のフォーラムでは、高槻先生の研究成果とそこから導き出される保全のための助言を多くの人と共有したいと思います。

なお、乙女高原フォーラムで同じ方に2回目の講師をお願いするのは初めてのパターンです。



乙女高原の遊歩道の長さって知ってます? 以前、市の担当者の方が測定してくださいました。

ツツジのコースは385m、草原のコースは375m、森のコースは405m、計1165m(ロープが張られている距離です)。全部歩いても1kmちょっとです。乙女高原では遊歩道全部を歩くつもりで来てくださいね。

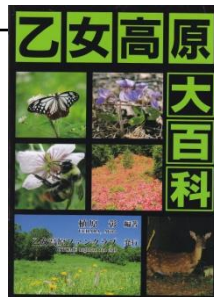
乙女高原ファンクラブの事務局だよ

● 杭のストックが76本もあるので、8月24日に予定された今年の杭づくりは実施しません。

乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁) 草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン11年間268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら360円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,360円送金してください。



乙女高原案内人



誕生と成長の記録

乙女高原ファンクラブ

乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判 186頁) 乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。1冊1,000円、送料は一冊につき82円。欲しい方は郵便振込で1冊につき1,082円を送金してください。

乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



フィールドガイドⅢ スマレの観察のおともに

『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー) 乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

フィールドガイドⅡ マルハナバチの観察と調査のおともに 『マルハナバチ ウォッチング』

(A3判両面カラー) マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。

フィールドガイドⅠ 春から夏にかけて咲く草花のガイド 『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー) フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月第3版発行。

■乙女高原ファンクラブの普通会員になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になります。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会員には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会員には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】 植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ